

NGO・NPOの環境保全活動を支援します。

環境再生保全機構

地球環境基金便り

No. 33
September 2012

地球環境基金便り
第33号
2012年9月1日発行

発行／独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金部
〒128-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1-3-10 番
ミニサ川崎セントラルタワー8F
URL: <http://www.erca.go.jp/jfge/> E-mail: c-kin@erca.go.jp
TEL: 044(5)6606 FAX: 044(5)2190 編集協力／廣告社株式会社

里山里海、
「グリーンエコノミー」のお手本が
日本にあった。



特集 国連持続可能な開発会議 リオ+20における 日本のNGO・NPO活動



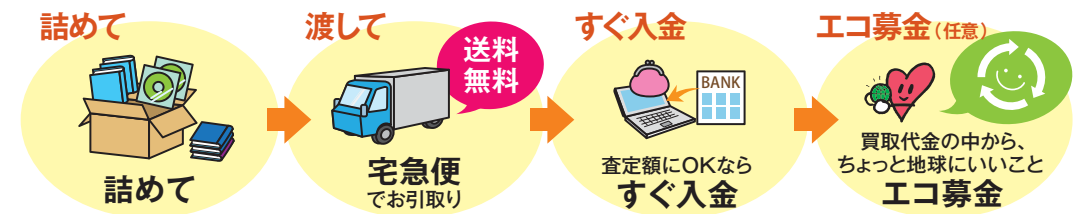
ご寄付のお願い

地球環境基金への寄付を通して、環境NGO・NPO活動をご支援ください。

1 スマイル・エコ・プログラム



宅配買取サービスのご利用方法



エコとリサイクルを お手伝い

送料無料の宅配買取にエコ募金を組み合わせた「スマイル・エコ・プログラム」。買取1件につき、ネットオフ株式会社の負担により一定の金額が地球環境基金に寄付される仕組みです。また、買取代金から任意の金額を地球環境基金にご寄付いただけます。

買取可能商品

本・CDコース	30点から買取	ブランド・ホームコース	1点から買取
コミック & 書籍	CD DVD ゲームソフト	ブランド品 ブランド時計 金・プラチナ & 宝石 デジタル家電 & カメラ 携帯電話	フィギュア & ドール 楽器 ゴルフクラブ & 釣り具

お申し込み(ネットオフ株式会社) <http://www.ebookoff.co.jp/smile/> 電話0120-39-0202

2 銀行からの お振込



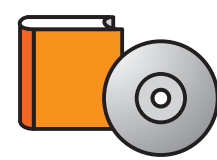
14ページの「ご寄付口座のご案内」をご参照の上、お振込みください。

3 全国の Famiポートから



全国のファミリーマートに設置されているマルチメディア端末「Famiポート」から地球環境基金にご寄付いただけます。

4 ご不要になった 本やCDを通して



ご家庭や職場等でご不要になった本やCD等をブックオフオンラインに買い取っていただき、その買取金額が地球環境基金に寄付されます。

5 オンラインで 決済



VISA、Masterのクレジットカードをお持ちの方は、地球環境基金のホームページからご寄付いただけます。

6 クレジットカードの ポイントを利用して

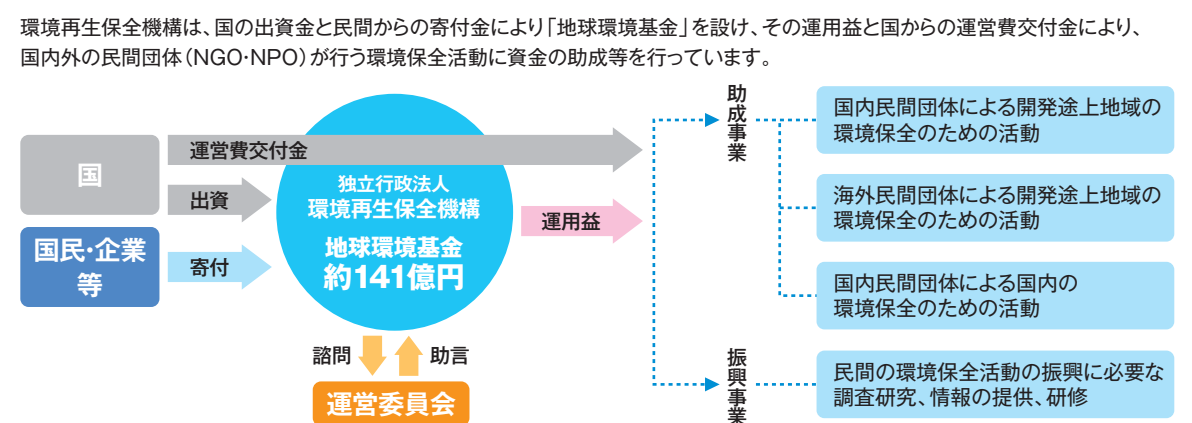


セゾンカード／UCカードの「永久不滅ポイント」を通してご寄付いただけます。

詳しくは、ホームページをご参照ください。 <http://www.erca.go.jp/jfge/>



地球環境基金とは



イベント情報

環境再生保全機構は、去る6月2日・3日の両日、代々木公園で開催された「エコライフ・フェア2012」に出席し、本年も来場された多くの方々に「エコアイデア」を書いていただきました。また、8月8日・9日の両日は「子ども霞ヶ関見学デー」に出席。こちらでもエコアイデアコンテストを実施し、多くの子ども達がエコアイデアを提案してくれました。



エコアイデアを吊るしたツリーの前で
(エコライフ・フェア2012)



エコアイデアでいっぱい「エコの木」
(子ども霞ヶ関見学デー)

編集後記

33号ではリオ+20を特集し、廣野良吉先生や野中ともよさん取材しました。日本だからできること、日本のパワーをお伝えできればと思います。また、33号・34号では地球環境基金の事業の一つである研修講座をご紹介します。33号では海外派遣研修を紹介しています。



独立行政法人 環境再生保全機構



「3・11の国だからこそ発信できる「生かされている」という文化」

今回のリオ+20は、私にとってあまり満足のいくものではありませんでした。国際会議と聞くと、何だかスゴイことのように思えるし、国連についても世界政府のようなイメージを持っている方が多いのではないのでしょうか。残念ながら、国連にそれほどパワーがあるわけはありませんが、共通の課題を議論する場、つまりプラットフォームとして存在していることはとても重要です。このプラットフォームをどう利用するかは、私たち一人ひとりの地球人の自覚にかかっていると思います。

リオ+20開催にあたり、日本はイニシアティブを取って「こういう地球サミットにしよう」という意見を言うべきだったし、また、政府も「持続可能な開発」の実現のために強力にコミットすることができた良かったのですが……。というのも、日本が3・11を経験した国だからです。

あの大地震も「マザーアース・地球」からすれば、ちょっと寒気がしてブルッと身震いしたぐらいのことでしょう。それだけで、想像を絶するほどの被害を受けてしまいました。ここから分かったことは、私たちは生きている

特集 国連持続可能な開発会議 リオ+20 日本のNGO・NPO活動

6月20～22日の3日間、ブラジルのリオデジャネイロにおいて、世界191の国と地域から約3万人の参加を得て開催された「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」。日本からも玄葉光一郎外務大臣を代表とする日本政府団130名をはじめ、企業やNGO・NPO関係者など大勢が参加しました。本号では、特集として野中ともよさんへのインタビュー、そしてリオ+20に参加したNGO・NPOの皆さんの声をレポートします。

Interview

すべての「いのち」あるもののために つながりましょう！

20世紀の高度成長から、21世紀の地球との共生へ。その途上で、東日本大震災を経験した日本。日本は世界に何を伝えるべきなのか、そして私たち一人ひとりができることは？ ジャーナリストで、NPO法人ガイア・イニシアティブ代表の野中ともよさんに、リオ+20の評価ならびに日本の進むべき方向について、お話を伺いました。

巻頭インタビュー	2
野中ともよさん ジャーナリスト、NPO法人ガイア・イニシアティブ 代表	
解説	6
リオ+20の成果とその将来 廣野良吉 先生 成蹊大学名誉教授、一般社団法人環境パートナーシップ会議 代表理事	
活動レポート	8
参加したNGO・NPO、そして企業の皆さんから Partner's Talk／助成団体レポート	10
全国高校生エコ・アクション・プロジェクト実行委員会	
NGO・NPOサポートプログラム紹介	12
研修講座 海外派遣研修編	
地球環境基金のサポーター	14
地球環境基金をご支援くださった方々	

電子書籍、ムービーとなって、世界に発信されています。

当時、私の事務所は南青山にありましたが、ここに若い人たちが集まり、連日連夜、アイデアを出し合っていました。皆本心に熱心で、身も心も地球サミットに捧げていました。このようないきなりには、寝食も忘れて「熱く」「惚れる」人がいないと前に進んでいけません。私はそれを縮めて「アホ」の力と呼んでいるんですが（笑）。

※詳細は、「地球サミット2012 Japan」のホームページを参照
(<http://www.earthsumit2012.jp/>)



【表紙写真】
石川県能登半島
「白米の千枚田」

2011年6月、国連食糧農業機関（FAO）により先進国では初めて、「能登の里山里海」と「トキと共生する佐渡の里山」が世界農業遺産（GIAHS）に認定されました。リオ+20のテーマである「グリーンエコノミー」の今後の推進を図る上で、そのモデルの一つとして世界に誇れるものです。

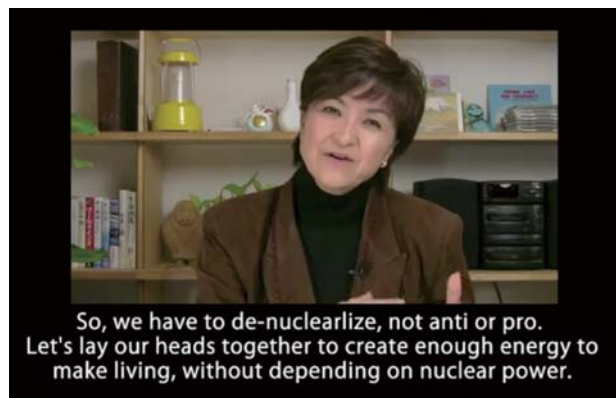
表紙写真：アフロ（白米の千枚田）、Climate Youth Japan（リオ+20に参加した若者たち）

のではなく、生かされているということ。3・11は、私たちが自然の懐、掌の中で生かされている存在にすぎないということを感じさせる、ウェイクアップ・コール（目覚めよという呼びかけ）だったと思うのです。

「どんな経済大国になったとしても、地震や津波は防げません。最先端だと信じていた原子力で多くのいのちを危険にさらすことになってしまいました。それを日本は経験したのです。だからこそ、地球という限られた資源の中で生かされていることに、もう一度目覚めましょう。日本では、木や風の中にも神様がいるし、道端の小さな花にもいのちが宿るといって『生かされている』ことを人々が信じられる伝統文化があります」といった、インパクトのある演説を日本政府には期待していたのですが……。

もう一つ、残念だったことはリオ+20が一般市民に大きな影響を与えることができなかったことです。マスメディアに積極的に報道してほしかったのですが、あまり大きく取り上げてもありませんでした。例えば、期間中、新聞の3面に囲みで「今日のリオ」とか「私も行きました」など、いろいろな人のインタビュー記事を書いたら、

3.11は今までの生き方に対するウェイクアップ・コール。



「Japan VOICES」でメッセージを述べる野中さん。
本ムービーはリオ+20のジャパンパビリオンでも放映された



東北へ届ける苗木を集めたメッセージツリー「いのちの木」の前で（「いのちの森2012」にて）



地球サミット1年前イベント「WorldShift Forum 2011—シフトを、日本から。」においてトークする、野中さんとワールドシフト・ネットワーク・ジャパンの谷崎テトラさん

一般の人にももっと興味を持っていただけではないか、などですね。

「お金」から「いのち」へ、私たちの価値をシフトする

3・11というウェイクアップ・コールで、気付かされたことが2つあると思います。一つは先程お話しした、私たちは生かされている存在でしかない、ということ。それを環境という言葉で言うなら、環境Ⅱ大地の懐Ⅱ地球の営み、これは人知を超えたものです。

西洋で言う自然とは、向き合って克服し、征服する存在。カルチャー（文化）が、カルティベート（耕す）という言葉に由来するように、森を拓いて開墾することが文化であり、文明であると考えます。しかし私たちは、自然に対する畏敬の念を先祖代々受け継いでいます。ただ、この感覚を私たちは都市生活の中では忘れかけているように思います。

都市生活では「お金」が価値の規準となってしまうています。経済成長率、金融取引高、為替……。3・11は、お金という価値にからめとられた日本の姿、社会の仕組みを明らかにしました。私は「いのち」をテーマに活動しています。「いのち」を英語で訳すと、ライフ？ 英語のライフは人生、生

るのです。

「日本はどうなるのでしょうか」ではなく、「日本をどうしましょう」です。覚悟を決め、叡知を集めましょう。幸い、今の私たちは携帯電話さえあれば、世界とつながることができます。「いのち」が喜ぶ方向に、どんどん横につながっていきませんか。



ガイアユース企画のツアーに参加し、王滝村で間伐体験する若者（プロジェクトについては左記コラム参照）

21世紀の日本は「いのち」が喜ぶ方向へ

21世紀、私たちが力を合わせて取り組まなければならないのは、このちっぽけな星の上でいただいている「いのち」を後世につなげていくこと。その「いのち」にとってかけがえのないものが4つあります。それが、水、大気、食料、そしてエネルギー。これを、もう一度原点にかえって考え改めなければ

大きな岩を見て、思わずびつたりとしがみついて「ありがとう」と言ってしまう。その岩に「いのち」が宿っていると感じる。こういう文化や感性は、環境問題の解決にいちばん大事な価値。だから、世界の中でこのような文化や感性を持っている日本の役割はものすごく大きくなっているのです。

「いのち」のために、今こそ日本の技術と叡智を。

ば、地球に住むすべてのものの「いのち」が危ない。

日本には、この4つをめぐる世界最先端の技術があります。これを再構築して、私たちは「サステイナブル・エコノミック・アニマル」になります。21世紀のアニマルは、小さなアリにもミミズにも「いのち」があることを知っていて、その代表としてサステイナブル・エコノミーを作るのです。

「前人未到で大変だけど、こっちの方向でやろうよ」と言えば、どれだけ日本の若者が元気になるか。人は何のために働くのかというと、もちろん頑張つて給料やボーナスが上がれば嬉しけれど、それよりも「良い仕事してくれて、ありがとう」と言われることが嬉しい。この仕事をやっていて良かったと思える瞬間です。人の「いのち」って、そういうふうにできてい

野中ともよさんが関わる環境プロジェクト

ソーラーランタンプロジェクト

インドの無電化村に太陽光充電式ランタンを普及させるプロジェクト。まず、村の中心にソーラーパネルを備え付けた充電ステーションを設営。ここで充電したランタンを村民に貸し出す。ランタンは、夜、子どもが宿題をしたり、女性が家事や手仕事をするのに役立っており、これまでに34村・1,700個のランタンが届けられた（2012年6月28日現在）。

http://www.gaiainitiative.org/gaia_village/

+1の森プロジェクト

長野県の木曽地方にある王滝村とパートナー協定を結び、2,600haの村有林内で森林整備を行うプロジェクト。下草刈りや間伐など、大学生を中心に構成されたガイアユースが企画する「王滝村+1の森ツアー」や、小中学生を対象に行われる「王滝村子どもキャンプ」などを通じ、村の人々との交流を深めている。

<http://www.gaiainitiative.org/forest/>

リオ+20

アースデイいのちの森

東京のと真ん中にありながら、オオタカなど約50種の野鳥をはじめ、多種多様な生物が棲息する「明治神宮の森」。ここを舞台に、環境フェスティバル「アースデイ東京」と同時に開催されるイベント。音楽やダンス、雅楽・神楽の演奏、トークショーなど、「いのち」への感謝と美しい自然とともに生きる喜びを分かち合うためのプログラムが2日間にわたり繰り広げられる。

<http://www.inochinomori.net/>

野中ともよさんのプロフィール

NHK、テレビ東京等で番組キャスターとして活躍後、2001年より日興フィナンシャル・インテリジェンス理事長、アサヒビール社外取締役、三洋電機社外取締役などを務める。05年7月～07年3月三洋電機代表取締役会長。また、財政制度審議会、法制審議会、中央教育審議会など政府審議会委員も歴任。07年8月、NPO法人ガイア・イニシアティブを設立、代表を務める。

リオ+20の成果とその将来

世界中の人が注目する中で開催された「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」の会議で、どのような成果があったのか？ アジア開発銀行、国連開発計画等の国際機関に勤務した経験を持ち、2002年のヨハネスブルグ・サミットでは当時の小泉純一郎首相率いる日本政府代表団の顧問団長、今回はメジャーグループの国内準備委員会委員を務めた廣野良吉先生にお話を伺いました。

そもそも、リオ+20の目的とは？

1990年代には、地球的課題を扱う大きな国際会議がいくつか開催されましたが、そのうちの一つが92年に開催された地球サミットです。国連の狙いは、環境と開発について各国政府にしっかりと考えてもらうこと、またステークホルダーにも一緒に考えてほしいので、市民も参加できる国連会議にしたのです。その10年後には、ご存知のようにヨハネスブルグ・サミットが開かれています。

地球サミットから20年経った今、この間に何が起こったのかをきちんと検証し、今後どう取り組んでいくべきか、各国政府に政治的決意を表明してもらうこと。それが、今回開催されたリオ+20の目的です。

その目的は達成されたのでしょうか？メディア等では、具体的な施策や数値目標が盛り込まれず、期待

外れというコメントが見受けられますが…。

今回について言えば、リオ+20準備委員会での討論から、20年前や10年前ほどの期待はできないと分かっています。主要テーマとなっていたグリーンエコノミーも、途上国からは先進国による一種の「グリーン植民地主義」ではないかという誤解を受ける等、認識の差もあり、数値目標を設定するための政府間合意は難しかった。

一方で評価できる点もあると思うのですが、いかがでしょうか？

見方はいろいろあると思いますが、ある程度進歩したという点では次の3点が挙げられます。

第一は、具体的施策や数値目標こそ盛り込めなかったものの、「20年前と比べ地球の生態系環境は悪化し、どこかで止めなければますます悪くなる」「貧困、紛争、雇用不安等、人間社会的課題についても解決しなければなら

るべきだ」とアピールしたこと。その結果、成果文書に「反省」が明記されました。もし、メジャーグループが強くアピールしなければ、この点は曖昧になったでしょう。

第二は、グループにより多少の違いはあるものの、メジャーグループは世



ジャパンパビリオンでブラジルの青年たちと一緒に
(写真提供:廣野良吉先生)

界一体だということです。つまり、国というものはそれぞれの立場がありますが、メジャーグループには先進国、途上国という壁がないのです。とにかく政府代表団に積極的に提言し、成果文書に反映させるような力を持つてきました。また、先進国では、政府がメジャーグループの意見を取り入れる傾向にあり、この気運はますます高まっていくでしょう。

第三は、多くのメジャーグループは国連の機能を強化したいと考えていることです。各国政府は「国連＝国益をかけて戦う場」と冷めた見方をしがちですが、メジャーグループは自分たちの意見を反映させるには国連の機能強化が必要と考えています。リオ+20でも、こうしたメジャーグループの提言

Commentary

ない」と再認識したこと。そして、これらの「生態系環境と人間社会的課題は相互に関係している」と皆が認めたことです。これは素直に評価して良いでしょう。

第二は、世界中から多くのステークホルダーが参加し、自分たちが望む未来を語り合ったことです。私も13日から22日まで現地に滞在し、ほぼ毎日のように様々な会合に参加し意見を述べました。実際に数えた訳ではないので正確には分かりませんが、至る所で会合が持たれていましたから、大小を合わせると、その数は1000余りになるのではないのでしょうか。とにかくすごいことだと思います。

そして第三に、SDGs（持続可能な開発目標）について方向性が見えたことです。これまではMDGs（ミレニアム開発目標）というものがありましたが、これはあくまでも途上国の貧困削減を目標とするものでした。しかし、SDGsは我々が直面し

が受け入れられ、具体的にはCSD（持続可能な開発委員会）に替わるハイレベル政治フォーラムの設置、そしてUNEP（国連環境計画）の機能強化について第67回国連総会で具体的内容を採択すると合意しています。

もちろん、成果文書に入らなかった提言も多くあります。主なものでは、再生可能エネルギー導入の目標値設定、原子力発電への依存度の引き下げ等がそうです。個人的に言えば、「地球上の資源は地球の所有物。みんなが共有する地球」というグローバル・コモンズの考え方を、成果文書に反映できなかったのは残念なことです。

最後に、今後の課題と日本に対する期待を教えてください。

リオ+20を理解するための基礎知識

■リオ+20の概要

2012年6月13～24日（本会議は20～22日）、191の国・地域から各国の首脳や政府代表団、NGO等、約3万人が参加した史上最大の国連会議。

【目的】

- ①持続可能な開発に関する新たな政治的コミットメントを確保する。
- ②持続可能な開発に関する主要なサミットの成果の実施における現在までの進展および残されたギャップを評価する。
- ③新しい、または出現しつつある課題を扱う。

【テーマ】

- ①持続可能な開発および貧困撲滅の文脈におけるグリーンエコノミー。
- ②持続可能な開発のための制度的枠組み。

■リオ+20までの道のり

1972年	国連人間環境会議（ストックホルム） 「人間環境宣言」採択
1992年	国連環境開発会議（通称地球サミット） 「リオ宣言」「アジェンダ21」「生物多様性条約」 「気候変動枠組み条約」「砂漠化対処条約」採択
1997年	地球温暖化防止京都会議（COP3） 「京都議定書」採択
2000年	国連ミレニアム・サミット 「国連ミレニアム宣言」採択

リオ+20

2002年	持続可能な開発に関する世界首脳会議 （ヨハネスブルグ・サミット）
2010年	生物多様性条約第10回締約国会議（COP10） 「名古屋議定書」採択
2012年	国連持続可能な開発会議（通称リオ+20）

■メジャーグループとは

1992年の地球サミットでは、21世紀に向けた行動計画「アジェンダ21」を採択したが、この中で広く市民社会の参加を促し、環境問題解決のための主要なプレイヤーとして、次の9つのグループを定義した。①女性、②子ども・若者、③先住民族、④非政府組織（NGO）、⑤地方自治体、⑥労働者・労働組合、⑦企業・産業、⑧科学技術コミュニティ、⑨農業者。これらをメジャーグループと言う。

■成果文書とは

正式タイトルを「The Future We Want（我々が望む未来）」と言い、2010年6月以降10回以上の準備会合を経て本会議で採択された。同文書は53ページ・6章・283パラグラフで構成されている。

- 1章 共通のビジョン
- 2章 新たな政治的コミットメント
- 3章 持続可能な開発と貧困撲滅の文脈におけるグリーン経済
- 4章 持続可能な開発のための制度的枠組み
- 5章 行動枠組みとフォローアップ
- 6章 実施手段

※成果文書はリオ+20の公式ホームページよりダウンロード可能。<http://www.uncsd2012.org/index.html>



一般社団法人
環境パートナーシップ会議
代表理事
廣野良吉 先生

ひろの・りょうきち
成蹊大学名誉教授。日本
評価学会・国際開発評価学
会副会長の他、国連大学
シニア・アドバイザー等、
多数の諮問委員を務める。

今回はステークホルダーの参加が多かったと評価されましたが、いわゆるメジャーグループの提言はどの程度反映されたのですか？

リオ+20で言うところ、やはり3つのことが言えます。

第一は、メジャーグループがそれぞれ自国政府に対し「するべきことをきちんとやってこなかった。きちんとや

正直言って、リオ+20に関しては、日本における市民社会の盛り上がりは少なかったと思います。本来なら、市民が積極的に議論に参加し、政府の背中を押すのが望ましい。そういう意味では、メジャーグループの力が弱かったかなと反省する面もあります。政府に対して大きな力を持つメジャーグループも出てきていますが、まだまだ力不足と認めなければなりません。

しかし、SDGsという方向性が決まった以上、日本政府に期待することもあります。今のところ、その内容は漠然としています。ぜひとも日本がイニシアティブを取り、新しい目標に向かって世界をリードしてほしい。日本には、それを可能にする豊かな経験があります。

参加したNGO・NPO、そして企業の皆さんから

今回開催されたリオ+20には、日本からも官公庁や自治体、企業、研究機関、そしてNPO・NGOの皆さんが数多く参加しました。地球環境基金では、リオ+20に向けた活動に取り組む11のNPO・NGOに助成金を交付しましたが、この中から「一般社団法人ワールドシフト・ネットワーク・ジャパン」、グリーンエコノミーフォーラム、そして認定NPO法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議の3団体と、企業として参加された味の素グループの皆さんに寄稿いただきました。

一般社団法人 ワールドシフト・ネットワーク・ジャパン

The Future We Want -Japan VOICES-



ビーブルズサミットでのブース出展

<http://worldshift2012.jimdo.com/>

グリーンエコノミーフォーラム

グリーンエコノミーの 推進を目指して



3月30日のシンポジウムの様子

<http://geforum.net/>

認定NPO法人 持続可能な開発のための 教育の10年推進会議 (ESD-J)

地域のエンパワーメントを核にした 持続可能なアジアへ

国連、NGO、研究者などが参加した
公式サイドイベント

<http://www.esd-j.org/>

味の素グループ

サステナブルな食の未来に向けた 取り組みを世界に提言

ジャパンパビリオンで
プレゼンテーションする 國本 裕
味の素株式会社 代表取締役 副社長執行役員

http://www.ajinomoto.co.jp/press/2012_06_05.html

東日本大震災後の日本に暮らす人々の声から私たちが目指す未来の姿を描き出し、リオ+20を通して世界に発信していくプロジェクト：「The Future We Want -Japan VOICES-」のもと、ワールドシフト・ネットワーク・ジャパンは、映像制作（アーティストから起業家、震災ボランティア

アから思想家まで、ポスト3・11の日本のビジョンをリードする有名無名の人々の映像インタビュー）、ならびにリオ現地での発信を行いました。

リオ現地には映像に出演された福島の方々も同行し、ビーブルズサミット、公式サイドイベント、ジャパンパビリオンパネルディスカッションならびに経済産業省ブース等にて、映像上映や参加者同士での対話を行いました。

市民レベルでの対話と連携に大きな手応えを得るとともに（大手新聞メディアにも掲載）、ジャパンパビリオンにおいても市民らしい活動として好評価をいただきました。今後は、リオ現地での情報や成果を国内にフィードバックするとともに、今回の活動を通して培ったネットワークを活かし、日本の人々の未来に向けた声を集め、ビジョンを描くプラットフォームとして発展させていきたいと考えています。（詳細は、<http://futurewewant.jp/>を参照）



ジャパンパビリオンでのパネルディスカッション

私たちは、「環境社会問題解決・持続可能な社会実現のための経済の推進」を目的にリオ+20に参加しましたが、事前活動として3月13日にワークショップ「環境・貧困問題解決に向け、経済のあり方を考える」、3月30日にシンポジウム「CSR基準の最新潮流と今後」、そして6月6日に

リオ+20直前シンポジウム「持続可能な開発と貧困撲滅の文脈におけるグリーンエコノミーとポストMDGs／持続可能な開発目標（SDGs）」を開催。また、3月31日にはレポート「リオ+20に向けた現状と展望（詳細版123頁、要約版4頁）」も発行しました。

現地での主な活動としては、交渉をフォローし、その状況をまとめたメールニュースの配信、当フォーラムメンバーによる関連イベント等での講演、そして他NGOとの連携の下での記者懇談会をそれぞれ複数回実施。各イベントでは、様々な国の方々と活発な議論を展開し、当フォーラムメンバーの見解はメディアでも紹介されました。今後は、成果文書において持続可能な開発達成の重要なツールと位置付けられた「グリーンエコノミー」に関し、更なる国際合意形成と各国・NGO・企業の取り組み促進のため、シンポジウム開催、書籍発行、情報・提言の発信等を行っていきます。



リオ+20会場での成果文書交渉

Action Report

私たちは、今年3月、ESD (Education for Sustainable Development) に関するネットワーク構築を目指すアジアのNGOとともに、リオ+20に向けた提言を取りまとめました。提言では、「21世紀、世界経済の中心となるアジアは、地球の持続可能性に大きな影響を与える。持続可能な開

発の基盤は地域コミュニティにあり、地域をつくる人づくり（IESD）が重要。政府や国連の手の届きにくい地域コミュニティレベルでの持続可能な地域づくり・人づくりに貢献しているNGOの存在がとりわけ重要」等が強調されています。

リオ+20では、公式サイドイベントを開催し、アジアのNGOと提言をアピールしたほか、各国政府や様々な関係機関にも提言を周知しました。成果文書に、国連持続可能な開発のための教育の10年（DESD）終了後のESD推進が明記されたことは大きな成果でした。他方、成果文書における教育に関する解釈は狭く、教育機関以外のセクターの参画や、キャパシティビルディングと教育とのリンクが不十分という課題も明確になりました。今後、持続可能な開発に必要な教育とは何かを改めて問いかけながら、DESD終了後のESD推進のあり方を、幅広いステークホルダーとともに検討を深めていく方針です。



アジアのNGOと取りまとめた提言をもとにインド、グルジア、日本の各政府に成果文書への要請を行った

「私たちの望む未来」の実現に向けて。味の素グループは、日本発のグローバルな食品メーカーとして、6月13・24日、ジャパンパビリオンおよび国連による併設セミナーにおいて、事業を通じて、人にも地球にもよりよい食の未来を構築していくことを宣言しました。キーワードは「good

being // Green eating」。それは、ただおいしいだけでなく、栄養バランスが優れているだけでもなく、この星の自然を育み、人も地球も健康にする、そんな新しい「食の未来」をつくることです。味の素グループは、食、アミノ酸・医薬等の事業を通じ、創業以来103年にわたり培ってきた、いのちに深くかわかる知見を活かし、現在約70億、2050年には90億に達すると言われる世界の人々の食のあり方を変えられるような製品とサービスを提供していきます。

ブースやセミナーにお越しいただいた国連や各国の政府・NGO関係者、学生、一般市民等2万人以上の方々と、食の未来について様々な角度から意見交換をし、皆さま方には私たちの活動に対して高い期待と関心をお寄せいただきました。

味の素グループは今後も、人のいのちを支える食の持続可能性に向けた取り組みを深め、世界の方々とともに、食の未来を考える機会を大切にしていきたいと考えています。



ブースに来訪された約2万人の方と活発に議論

環境活動の未来の担い手、高校生に確かな環境意識を

■本プロジェクトが高校生を対象にしている理由をお聞かせください。

環境悪化の影響を受けるのは、間違いなく次世代です。国際会議ではよく「何年までに何をする」という目標を立てますが、温暖化対策の国際交渉では2020年や2050年が目標年となっています。今年16歳の高校生は2020年に24歳、現場で活躍する若手になります。そして2050年には54歳で、社会で責任ある立場となっているでしょう。つまり、環境活動の未来の担い手となる高校生に、今、環境意識をしっかりと持つてもらうことが大事だと考えているのです。

■現在、高校ではどのような環境活動が行われているのでしょうか。

生徒会が中心となって行う地域の清掃活動や、途上国へワクチンを送るためのペットボトル・キャップの回収といった活動はかなりの多くの高校で行われています。さらに進むと、生徒会の下に環境委員会を作ったり、部活動で環境プロジェクトを展開したり、農業高校や工業高校では授業の一環として取り組んでいるケースもあります。ただ、このような活動を発表する場がない

かった。外に向けて発表できる場を作りたいと考え、「高校生環境活動発表会 全国大会」を始めました。

普段の活動から国際問題まで様々なレベルで高校生を応援

■実行委員会の活動の中心は「場」の提供ということですか。

2つあります。一つは地区大会や全国大会など、高校生が交流し、刺激し合えるような発表の場を作ること。もう一つが、より広い視点から環境問題を考えられるよう、学習の機会を提供することです。環境問題のプロを招いて気候変動や国際交渉の現場について講演してもらったり、リオ+20などタイムリーな国際的環境イベントを取り入れたりしています。これらのプログラムを作るのは私たちですが、プロジェクトの主役は常に高校生なんです。

■高校生が企業を訪問する活動もありますね。

最先端の環境技術が学べ、非常に勉強になります。例えば、ペットボトル。分別してリサイクルに回すけれど、その先がどうなっているかは分からない。でも、実際に工場を見学し、再生されたペット樹脂を手にとると、分別の方法や意味が理解できる。分ければ、友

達に「ここに、こんなふうに捨ててね」と伝えることができるようになります。

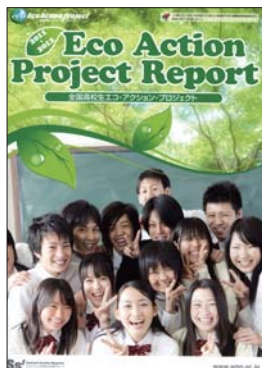
■企業側の反応はいかがですか。

最初は、高校生だと甘く見ていたようです(笑)。環境活動を行っている高校生は、環境に対する意識も知識も相当レベルが高い。企業訪問の際、高校生が自分たちの活動を説明すると、たいていの企業さんはビックリされます。

■活動内容を見ると、雪氷熱利用や出前授業等、環境NPO顔負けです。



第2回「高校生環境活動 発表会 全国大会」で、瀬戸内海に沈む「海ゴミ問題」について発表する岡山県の山陽女子高等学校 地歴部の皆さん



地球環境基金の助成によって作成し、500校へ配布した冊子



栃木県立栃木農業高等学校の生徒さんが、ペットボトルリサイクル企業・協栄産業株式会社(ジャパンテック株式会社)を訪問

ネットワークを充実させ

環境問題を解決する大きな力に

■地球環境基金の助成はどのように使われているのでしょうか。

小学校への出前授業は、年齢が近いせいか非常に上手で、大人の出る幕がありません。あと、ホタルを育てている高校生が、介護施設を訪ねてお年寄りにホタルを見せる等、地域に密着した活動がたくさんあります。

P a r t n e r ' s T a l k

全国高校生エコ・アクション・プロジェクト実行委員会

今こそ、高校生に注目！ 地球環境の未来を担う世代にもっと情報と発表の場を

助成団体
レポート

小中学校で行われている環境教育、大学生を対象にした企業やNPOによる環境インターンシップ。その狭間で、あまり注目されていなかった高校生の環境活動にフォーカスして支援を行っているのが、「全国高校生エコ・アクション・プロジェクト実行委員会」です。



お話を伺った運営委員の大木正和さん



DATA BOX

- 名 称：全国高校生エコ・アクション・プロジェクト実行委員会
- 住 所：〒105-8002 東京都港区浜松町1-31 株式会社文化放送開発センター内
- U R L：http://www.smn.or.jp/eco/
- 目 的：日本、そして世界の将来を担う高校生の環境活動を、学習や発表の場を提供することによって支援する。

●活動実績

- 2010年 4月 事業スタート
- 10月 生物多様性条約COP10「生物多様性交流フェア」見学
- 12月 「高校生環境活動 地区大会 発表会」を5会場で開催(札幌・東京・名古屋・大阪・福岡)
- 2011年 2月 第1回「高校生環境活動 発表会 全国大会」開催
- 8月 「東北地区高校生環境シンポジウム」開催
- 12月 「高校生環境活動 東北地区交流発表会」開催
- 2012年 2月 第2回「高校生環境活動 発表会 全国大会」開催
- 6月 「エコライフ・フェア2012」にブース出展し、活動発表
- 8月 「高校生環境サマースクール」開催

●主な活動内容

- ・環境活動高校紹介 ・環境イベント訪問 ・環境シンポジウム
- ・企業訪問 ・環境活動発表会



東北から7校の参加を得て「復興と環境」をテーマに開催された環境シンポジウム(仙台)



「エコライフ・フェア2012」で活動を発表する昭和第一学園高等学校 環境研究部

地区大会や全国大会の開催、そして1年間の活動をまとめた冊子の作成・配布に使わせていただいています。環境に興味のない高校生はたくさんいます。そんな高校生を巻き込み、環境に関心を寄せてもらうことが大事なので、読みやすい冊子にし、先生方にもご覧いただき、図書館にも置いてもらう。大会に参加した高校生には、朝礼などで発表するようお願いしています。

■これからの活動のご予定は？

全国に5200校程ある高校のうち、約350校の環境活動を把握していますが、これをさらに広げ、環境を切り口にした高校のネットワークを作りたい。このネットワークは誰もが使えるようオープンにします。例えば、行政が環境キャンペーンを行う時、あるいは地区で勉強会を開く時、ネットワークがあれば、多くの人に素早く情報を伝えられる。それが、環境に関心のない層を動かす力になるのではないのでしょうか。

Support Program

研修

NGO・NPO

サポートプログラム紹介

講座

海外派遣研修編

マレーシア

地球環境基金では振興事業の一つとして、環境保全活動に取り組むNGO・NPOを対象に、様々な研修講座を実施しています。今回は、去る8月4～5日の2日間にわたり開催された海外派遣研修の事前研修の様子をご紹介します。



平成24年度研修講座一覧

テキストを見ながらマレー語の会話練習をする研修生

■グループ毎に研修目標を検討した1日目
8月4～5日の2日間、国際文化会館（東京都港区）の会議室で事前研修が開催されました。初日は、マレーシア事情や日本のNGO活動の概要を学んだ後、各グループに分かれそれぞれの研修目標について話し合いました。ちなみに、このグループは研修生の英語力を考慮し、バランス良く分けられたものです。また、1日目の最後には、現地研修後に作成する報告書案について事前検討を行いました。研修生個人のテーマについては各自が作成し、グループテーマについてはそれぞれの役割分担を決めました。

■現地に着いたら「シアバナカム？」
2日目の最初は、マレー語会話とマレーシア社会のマナーについて。講師は、今回の現地研修の全行程に同行する社団法人日本マレーシア協会専務理事の新井卓治さんです。



また、今回の研修には「村人への聞き取り」というプログラムが含まれているため、それをどのように行うかについて説明。フィールド調査の手法には、RRA (Rapid Rural Appraisal＝簡易型農村調査)、PARA (Participatory Rural Appraisal＝参加型農村調査)、PLA (Participatory Learning and Action＝参加による学習と行動)等がありますが、今回はRRAで研修を行い、調査ツールとしては「インタビュー」と「描画」を使います。

「言葉で尋ねるより、絵を描いてもらった方が分かることがあります。例えば、アフリカのある地域で男女別々に地図を描いてもらったところ、男性はほぼ正確に描き、女性は川の位置を実際より遠くに描きました。

まずは、挨拶の仕方から。男性同士の場合は、片手で軽く握手し、その手を自分の胸に当てます。女性同士なら、両手で握手した後、同じように手を胸に当てると、仕事を交えて説明。すると、研修生の一人が「男と女の場合はどうするのですか？」と質問。「女性が手を差し出してきたら握手してもかまいません。でも、男性から手を出すのはNG。軽く会釈するといいでしょ」とのアドバイスがありました。

マレー語については、「現地に着いたら、簡単なことでもいいので、マレー語で話すようにしましょう。それだけでお互いの距離がぐっと縮まります」ということで、早速、研修生同士で会話を練習することに。自己紹介は「シアバナカム？（あなたのお名前は？）」「ナマサヤ※※（私の名前は※※です）。会議室中に「シアバナカム？」「ナマサヤツバサ」、「シアバナカム？」「ナマサヤスキ」とマレー語が飛び交います。その後、ホームビジットで役立つ知識や生活習慣等の話があり、あつという間に最初の講義が終了しました。



福岡准教授による講義シーン



インタビュー案を検討するグループの仲間

た。毎日その川に水汲みに行っている女性は、その辛さを距離として表現したのです。これだけでもジェンダーの差があることが分かりますね。今回は模造紙を持って行くので、何を描いてもらうかグループごとに考えてください」と、課題が出されました。しかし、インタビュア案と絵のテーマについて検討するものの、時間内に完成させることができません。福岡准教授から「出発するまではメールで問い合わせを受け付けますし、現地に行ってから相談に乗りますが、準備だけはきちんとしておいてください」というお言葉が。でも心配は不要です。研修事務局は最初からこうした事態を想定。研修者向けにメーリングリストを作成し、研修地に出発するまでフォローする体制をとっています。



先輩研修生による体験報告

最後に、現地での研修スケジュールについて説明があり、事前研修を無事終了。研修生の皆さんはどのような成果を持ち帰るのでしょうか。海外研修の報告は、次号（2013年3月発行予定）でご紹介しますので、お楽しみに！



研修生とスタッフの皆さん（国際文化会館の中庭で）

■先輩研修生から貴重なアドバイス
午後2時からの1時間は、前年度インドネシアで実施された海外研修に参加した清水溪さんと木村江美さんが体験を報告。研修内容の紹介後、後輩に向けて「事前リサーチはしっかりと」「いつでもメモを忘れない」「自分のテーマを常に念頭に」「現地はとても暑いので汗が出る。梅干しは必携」等々、体験者ならではのアドバイスがありました。

地球環境基金では振興事業の一つとして、環境保全活動に取り組むNGO・NPOを対象に、様々な研修活動を実施しています。平成24年度は次の16講座を実施します。詳しい内容は、ホームページをご覧ください。 <http://www.erca.go.jp/jfge/>

■環境保全戦略策定能力の向上に関する研修講座

研修講座名	対象地域	概要
環境保全戦略講座（地球温暖化防止、生物多様性保全、循環型社会形成、環境教育、環境アセスメントの5分野）	全国	環境政策の重点分野や環境アセスメントを戦略的に行うため、環境保全活動の現状と課題を整理し、最新の情報を理解した上で今後の方向性について議論等を行い、環境NGO・NPOの専門性や技術力の向上を図ります。
環境保全戦略講座（重点分野:環境とエネルギー）	全国2カ所	環境分野の中から、時事的な環境問題を考慮した重点的なテーマについての講座を全国2カ所で開催。今年度は「環境とエネルギー」をテーマに環境保全活動の現状と課題を整理し、最新の情報を理解し、共有した上で、今後の方向性について議論等を行うことにより、各地域の環境NGO・NPOの活動の促進を図ります。

■国際協力の推進に関する研修講座

研修講座名	対象地域	概要
海外派遣研修	開発途上国	民間環境活動団体のスタッフ等を海外の開発途上地域の活動現場等に派遣し、開発途上国の環境問題の現状などについて理解を深め、今後の環境保全活動に役立つ知識や技術を習得します。

■地球環境基金助成事業の進捗状況の把握に関する研修講座

研修講座名	対象地域	概要
地球環境基金助成団体活動報告会	全国	一般助成の継続2年目の団体を対象に、各団体の活動状況を報告するとともに、効果的な活動を行うため外部の専門家等が助言等を行います。

■地域の環境NGO・NPO活動の推進に関する研修講座

研修講座名	対象地域	概要
環境NGO・NPO活動推進・組織運営講座	北海道、中部・北陸、近畿、四国	環境保全活動に取り組むNGO・NPOが、地域において環境分野の課題解決に向けた取り組みを促進させ、又は組織運営に係る知識、技術を習得することにより、活動推進力や組織運営力を向上させる講座です。
環境NGO・NPOのための講師派遣による組織運営講座	西日本	環境保全に取り組むNGO・NPOに、専門家を講師として派遣し、会計・労務・広報等について指導・助言を行い、組織基盤の強化を図る講座です。
環境NGO・NPOレベルアップ研修	関東・甲越、中国、九州・沖縄	地域において環境保全活動に従事する者を対象に、環境保全に係る専門的知識・技術を習得するため、段階的にレベルアップが図れるよう年間を通じたあるいは連続した複数回の研修を行い、次世代を担うリーダーを育成します。

SUPPORTERS

平成24年1月から6月末日現在までに322件、総額 **1,433万5,216円** のご支援をいただきました。ありがとうございました。



地球環境基金のサポーター 地球環境基金をご支援くださった方々

地球環境基金に、平成24年1月から6月末日までにご寄付・ご支援くださった方々は下記のリストのとおりです。個人や企業・団体としてご協力いただいた方はもちろん、様々なイベントを通じて募金活動にご参加・ご協力いただいた大勢の方々に深く御礼申し上げます。

■感謝状贈呈者の活動

感謝状 **そら** エヌ・ケイ・ケイ株式会社

ダストブロワー（電化製品などのほこり飛ばしスプレー缶）には代替フロンタイプとノンフロンタイプがあります。ノンフロンタイプが幅広く認知され市場に出ておりますが、未だ地球温暖化への影響がCO₂の数百～数千倍とも言われている代替フロンタイプが残っております。エヌ・ケイ・ケイ株式会社では、ノンフロンのダストブロワーを開発・製品化し、温室効果ガス排出削減に寄与しています。その製品である「クリーンコール」について、売上の一部を地球環境基金にご寄付いただいています。



感謝状 **みどり** イーパートナーズ株式会社

イーパートナーズ株式会社のeco事業部では、バイオの力で生ゴミやペットのフン処理ができる「ニューサム」を販売しております。「ニューサム」はメンテナンスも簡単で手間がかからないため、長く使えば使うほど、地球環境にもお客様にも優しいロボットです。そのような環境保全に積極的に取り組む同社では、地球環境基金の募金箱とパンフレットを設置していただいております。



国・地方公共団体

小川村役場 住民福祉課
川崎町役場 町民生活課
川場村役場
環境省 募金箱
京都府 山城北保健所 環境室
熊谷市役所 環境部 環境政策課
小平市 ごみ減量推進実行委員会
佐賀市役所 環境課
篠山市役所 環境課
佐世保市役所 吉井行政センター
山陽小野田市役所 市民生活部環境課
滋賀県 甲賀環境事務所
千葉市 中央区役所 地域振興課
東温市役所 市民福祉部 市民環境課
豊田市 環境部 環境政策課
御高町役場 総務部 まちづくり課
南大隅町役場 総務課



その他

NTT全国OVB会 電友会 五ツ橋クラブゴルフサークル
一般社団法人環境パートナーシップ会議（EPC）
独立行政法人国立環境研究所 社会環境システム研究センター 環境経済政策研究室
五洋建設株式会社 大阪支店 労務安全協議会
東京農業大学 生活協同組合 本部
仲良し会
なりた環境ネットワーク
一般社団法人日本生花通信配達協会
社団法人日本ナショナル・トラスト協会
プレミアグロバルサビシスリミテッド
公益財団法人山形美術館 募金箱
リサイクル自動車ポッポ
りぶらサポータークラブ
（五十音順・敬称略）

*このリストは、地球環境基金への振込通知書等に記載された名称・氏名に基づき作成しておりますので、個人および企業・団体等の区別につきましては必ずしも正確ではない場合があります。また、紙面の都合により、ご寄付ご支援くださったすべての方々のお名前を掲載できない場合もございますので、ご了承ください。

企業

ITCネットワーク株式会社 営業サポート部
アイトバンライン株式会社
株式会社アクセル
浅香工業株式会社
株式会社朝日フィナンシャルグループ
株式会社イー・エス・コーポレーション
株式会社ECナビ
イーパートナーズ株式会社
伊藤忠アーバンコミュニケーションズ株式会社
有限会社インターリンク
株式会社内田洋行 九州支店
株式会社エースランドリー
エヌ・ケイ・ケイ株式会社
NTTコミュニケーションズ株式会社 プロキアメント部
株式会社エムウエーブ
株式会社オークローンマーケティング
奥野製薬工業株式会社 東京支店
キヨタ株式会社
株式会社サイバーガジェット
株式会社ジェイアール西日本 デイリーサービスネット
JNC株式会社

ジェイチャイナイシカワジュンイチ
株式会社ジェフグルメカード
株式会社ジャパンクリエイト
SUI INTERNATIONAL 株式会社
世田谷フロダクト・デベロップメント
双日エアロスペース株式会社
株式会社そごう・西武
有限会社第環境
株式会社橋フィナンシャルグループ
株式会社ちよびリッチ
株式会社トーカイ
トータルセータエンジニアリング株式会社 園田分室
ネットオフ株式会社
ファミマクレススト株式会社
ファミリーマート 美濃上条店
株式会社富士通エフサス
株式会社富士通マーケティング
株式会社富士通マーケティング 秋葉原事業所
株式会社富士通マーケティング・エージェンツ
株式会社富士通マーケティング・オフィスサービス
株式会社プレミアシステムサポート
株式会社プレミアバンク

個人

石井宏作
伊藤博法
上岡秀也
大坪 誠
岡野香代子
小園直也
加藤直美
孝橋絵理子
小林正平
嶋元 誠
杉本光史
関戸純夫
田中健三
千葉 昇
長濱 直
西久保裕彦
ネットオフ株式会社
お客様

野田好和
島山直子
原田広巳
平松優太
広岡整治
本田 聡
マエタマサナオ
牧 美穂
マズモトタカユキ
湊 亮策
南詔貴子
迎山哲也
望月 優
吉田 実

エグチトモコ
オオツカシユンスケ
オオノヨウコ
オカダユウジ
オガワヒロコ
オギヌマアキコ
カナモリノブユキ
クドウノリヒロ
クマガイトシノブ
クロカワヒサコ
クワハラトキコ
コイソヨシミ
コサカエツコ
コバヤシヒサコ
サイトウカズユキ
サトウエウコ
サトウカズユキ
シゲヒサユリコ
シバツヒサコ
スズキジュンコ

タカハシヨシコ
タケウチタカコ
タムラキヨシ
タムラミツコ
ナガオヨシコ
ノウタクミコ
ノグチエユコ
ハヤシジュンコ
ハラノブコ
フルヤヒロコ
マツイヨウコ
ムロタイサオ
ヤマダヨウコ
ヤマモトカツヒコ
ヨウメイアキコ
ヨウメイケンジ
ヨネタエミ



■ご寄付いただいた皆さまに

- ・お名前をホームページやニュースレター等でご紹介します。
- ・一定額以上のご寄付をいただいた方には感謝状を贈呈します。

へ	ちきゅう	「ほし」が2回以上のご寄付
感謝状贈呈要件	ほし	法人は50万円以上または累積100万円、個人は20万円以上または累積50万円以上のご寄付
	そら	法人は累積50万円、個人は累積20万円以上のご寄付
	みどり	法人は累積10万円、個人は累積5万円以上のご寄付

■「地球環境基金便り33号」読者アンケートにご協力ください

アンケートは、このページのアンケートはがき、およびホームページ「地球環境基金の情報館」のアンケートページ（<http://www.erca.go.jp/jfge/info/publicity/tayori/form.html>）において受け付けております。皆様のご意見・ご要望をお聞かせください。

Present

アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で、地球環境基金オリジナル・エコランチョートバッグをプレゼント（応募締切：2013年2月末）。当選者の発表は、地球環境基金のホームページ上で行う予定です。



■ご寄付口座のご案内 「地球環境基金」へのご寄付は、下記口座より受け付けております。お振込みの手数料は無料です。

銀行名／支店名	口座番号	口座名称
ゆうちょ銀行	00190-0-664214	地球環境基金
新生銀行／本店	普通預金 0789699	独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金
三井住友銀行／東京公務部	普通預金 3013615	
三菱東京UFJ 銀行／本店	普通預金 7637448	
みずほコーポレート銀行／本店	普通預金 2413416	
りそな銀行／赤坂支店	普通預金 1023850	

同一金融機関でのお振込みについては、取り扱い窓口でお申し出ください。

- ①独立行政法人環境再生保全機構は、特定公益増進法人に指定されており、税制上の優遇措置を受けることができます。
- ②ゆうちょ銀行以外の銀行からお振込みいただく場合には、領収書が発行できません。領収書の発行を希望される方は、お手数ですが、地球環境基金部基金管理課（TEL:044-520-9606）へご連絡ください。

※この他にも、クレジットカードを利用した寄付や、楽天銀行を利用した寄付が可能です。詳しくはウェブサイトをご覧ください。
地球環境基金の情報館 <http://www.erca.go.jp/jfge/>